

## セグメント別概況

売上高は全事業で増加し、特にSMO事業と益新事業ではそれぞれM&Aの効果が寄与し大幅増となりました。利益面では、Global Research事業を除く各事業が堅調に推移したことから増益となり、とりわけSMO事業とCSO事業の増益率は前年同期比で100%を超えました。

### CRO事業

CRO事業は、売上高14,943百万円(前年同期比6.8%増)、営業利益3,791百万円(同4.9%増)となりました。治験業務のマネジメント強化やPMS業務における原価管理の徹底、さらに今期からCRO事業に加わった臨床研究業務の案件が好調に推移したことが大きく寄与しました。

### SMO事業

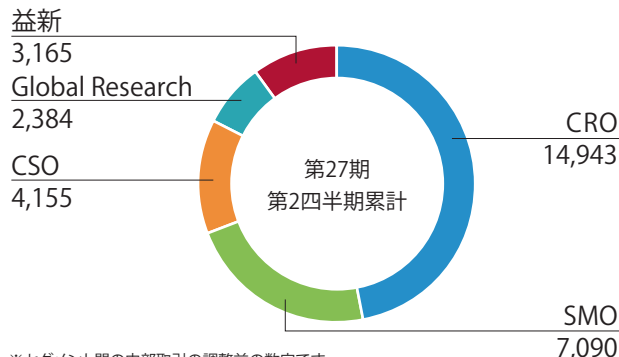
SMO事業は、売上高7,090百万円(前年同期比41.7%増)、営業利益1,012百万円(同141.3%増)と大幅な増収増益となりました。2016年1月の経営統合以来、統合シナジーを最大限に発揮できる体制の整備を進めてきた結果、案件が順調に進捗しました。

### CSO事業

CSO事業は、売上高4,155百万円(前年同期比17.4%増)、営業利益260百万円(同109.6%増)となりました。MRダイレクト(電話やメールによるディテリング)業務の好調によってコールセンター部門が大きく伸長し、増収増益に貢献しました。

## セグメント別売上高

(百万円)



※セグメント間の内部取引の調整前の数字です。

### Global Research事業

Global Research事業は、売上高2,384百万円(前年同期比13.6%増)、営業損失152百万円(前年同期は219百万円の利益)となりました。実施中のプロジェクトが堅調に推移、新規受注も貢献して増収となった一方、利益面では体制強化のための採用活動で費用が増加し、損失を計上しました。

### 益新事業

益新事業は、売上高3,165百万円(前年同期比69.4%増)、営業利益183百万円(前年同期は74百万円の損失)となりました。医薬品関連業務において期初に買収した中国製薬メーカーの業績が好調に推移したことから黒字転換を達成し、増収増益となりました。

## 通期の見通し

通期業績は、売上高58,000百万円、営業利益6,500百万円、経常利益6,500百万円、親会社株主に帰属する当期純利益3,500百万円を計画しています。上期に計画を上回ったものの通期の売上高は予定通り、また黒字と計画していたGlobal Research事業の費用増により赤字を見込んでいることから、当初の計画を変更していません。